

1.新規塗装・改修塗装（コンクリート・モルタル素地）

●テクスチャーをつける場合（JIS A 6909 可とう形改修塗材E）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数 (回)	塗面積 (m ² /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下（デジタル水分計）、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー	0.1~0.2	1	75~150	—	-	2h以上	-
下地調整材	リフレッシュファイラー 16kg	1~3% (希釈水)	マステックローラー	0.8~1.5	1	11~20	—	-	16h以上	-
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	—	2h以上	-	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」を塗装してください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数 (回)	塗面積 (m ² /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	モルタル、PC、RC等の下地に付着しているレイタンス、土砂、ホコリ、油脂類は除去し、水分率5%以下（デジタル水分計）、pH10以下に管理する。欠け、不陸部分は樹脂モルタルであらかじめ補修する。									
下塗り	水系Wシーラー 15kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー	0.1~0.2	1	75~150	—	-	2h以上	-
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	—	2h以上	-	24h以上

※エフロレッセンスの発生が懸念される場合は、下塗りに「2液マイルドウォールシーラー」または「リフレッシュサフェーサーエポ」を塗装してください。

※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

2.改修塗装（複層仕上塗材、薄付け仕上塗材）

●テクスチャーをつける場合（JIS A 6909 可とう形改修塗材E）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数 (回)	塗面積 (m ² /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュファイラー 16kg	1~3% (希釈水)	マステックローラー	0.8~1.5	1	11~20	—	-	16h以上	-
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	—	2h以上	-	24h以上

※旧塗膜の劣化が著しい場合は、下塗りに「水系Wシーラー」をご使用ください。

●テクスチャーをつけない場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数 (回)	塗面積 (m ² /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3~5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2~0.5	1	32~80	—	-	3h以上	-
		4~6% (希釈水)	エアレス	0.3~0.5		32~53				
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	—	2h以上	-	24h以上

※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。ただし、リシンには「リフレッシュサフェーサーエポ」を推奨します。

※上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

3.改修塗装（窯業系サイディングボード）※テクスチャーは変えられません。

●旧塗膜の劣化が著しい場合

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/m ² /回)	塗回数 (回)	塗面積 (m ² /缶(セット))	可使用時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	付着物(ゴミ、ほこり、苔、カビ、油脂類)をワイヤーブラシ、皮スキ、タワシ、高圧洗浄機で丁寧に除去し、充分に乾燥させる。									
下地調整材	リフレッシュサフェーサーエポ 16kg	3~5% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.2~0.5	1	32~80	—	-	3h以上	-
		4~6% (希釈水)	エアレス	0.3~0.5		32~53				
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	—	2h以上	-	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものがコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。

※旧塗膜の劣化が軽度な場合は、「リフレッシュサフェーサーエポ」のかわりに「水系Wシーラー」も使用可能です。

※「水系Wシーラー」を使用する場合で、上塗りの色と下地の色の差が大きい場合は、隠ぺい不足となる可能性があるため、下塗りは「水系Wシーラー 白」をご使用ください。

4.改修塗装（金属系サイディングボード）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
素地調整	さびの発生が進行していたり、塗膜に膨れ、割れ、はがれ等のある場合は、3種ケレンによりさびや死膜を除去する。 その後、清掃、水洗、乾燥させてから塗装する。									
下塗り	水系ハイエボン 主剤 9kg 硬化剤 6kg	5~7% (希釈水)	ハケ・ローラー	0.16~0.18	1	83~94	4h以内	-	16h以上 7日以内	-
上塗り	ナノウォール20 15kg	3~10% (希釈水)	ハケ・ローラー エアレス	0.12~0.16	2	47~62	-	2h以上	-	24h以上

※光触媒・無機・フッ素系のものでコーティングされた基材や経年劣化していない基材には付着しない場合がありますので、付着性を確認の上、施工してください。

※別途「エポックマイルド#2000」も使用可能です。

※上塗りの色によっては3回塗装が必要な場合があります。

※水系ハイエボンは、可使時間が過ぎても塗料粘度の上昇がほとんどないため使用可否を判断できません。可使時間を過ぎた塗料は使用を避けてください。

※水系ハイエボンをご使用の際、気温が25℃以上になる場合には「水系ハイエボン硬化剤 夏用」をご使用ください。通常の硬化剤では、塗装用具が早期に固まり塗装しづらくなります。

5.その他の下塗り材

●エフロレッセンスの発生が懸念される場合（2液マイルドウォールシーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
下塗り	2液マイルドウォールシーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	0.1~0.15	1	73~110	10h以内	-	5h以上 7日以内	-

※シーラーの吸い込みが激しい場合は、再度全面にシーラーを塗装してください。

●難付着性サイディングボードの場合（高密着シーラーは弱溶剤系塗料です。）

工程	使用塗料	希釈率	塗装方法	塗付量 (kg/㎡/回)	塗回数 (回)	塗面積 (㎡/缶(セット))	可使時間 (23℃)	塗装間隔(23℃)		
								工程内	工程間	最終養生
下塗り	高密着シーラー 主剤 10kg 硬化剤 1kg	既調合 (希釈しない)	ハケ・ローラー エアレス	0.1~0.15	1	73~110	10h以内	-	5h以上 7日以内	-

※光触媒サイディングの場合、上塗り塗料は必ず規定量を塗付していただき、塗りムラや透けないようにお願いいたします。

注意事項

【仕様全般】

- 降雨・降雪・強風が予想される時や高湿度(80%以上)・低気温(5℃以下)の場合は施工を避けてください。高湿度・低気温で塗装した場合、未乾燥状態で夜露などにあると艶引けを起こすおそれがあります。
- 被塗物の表面温度が5℃以下の場合は塗装を避けてください。
- 塗装直後、降雨や結露等で白化した場合、目直しを行って再度塗装してください。
- 塗装面のゴミやホコリ等は取り除いてください。
- 水洗後、1日以上乾燥を行ってください。
- 塗料は内容物が均一になるように攪拌してください。薄めすぎは隠ぺい力不足・仕上がりが不良等が起りますのでご注意ください。
- 塗装間隔時間は標準であり、立地条件や気象条件により異なります。
- 斜壁やパラペットの天端に塗装を行なった塗膜は壁面と比較して耐久性に差が生じることがあります。
- ハケ塗り仕上げとローラー塗り仕上げが混在する場合、塗付量・表面肌が異なるために若干の色差異がでますので、ハケ塗り部分は希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。
- エアレス塗装の場合、塗料の飛散による汚染の可能性がありますので、必ず養生してください。
- ガラス・アルミサッシ等に付着した場合は、すぐにウエスに水をしみ込ませてふき取ってください。乾いた時は、ラッカーシンナーでふき取ってください。
- 爆裂したような著しく劣化したサイディング材へ塗装すると意匠性が劣るため、塗装は避けてください。
- 目地部が深い場合は、目地ハケなどで塗装してください。
- 目地部に塗料がたまった場合や、タレが発生した場合はむら切りしてください。
- 塗装中に塗料を開放して放置しますと上乾きすることがありますのでご注意ください。また上乾きした塗膜は塗料に混ぜ込まないでください。
- 補修部分が目立つことがありますので、同一塗料ロット・同一塗装方法で補修してください。また適正希釈にご確認ください。
- 汚れ・傷等により補修塗りが必要な場合がありますので、使用塗料の控えは取って置き、同一ロット・同一塗装方法で補修してください。
- 濃色目になると、ローラー塗装時に塗り継ぎ箇所艶むらを生じやすい傾向にあります。試し塗りの上、本施工に入ってください。
- 塗装乾燥過程で降雨にあった場合、雨水の集中する部位に於いて、汚れが付着することがあります。適切な養生を行うなどして直接雨が当たらない様な処置をお願いします。
- 上塗材は所定の乾燥時間(最終養生時間)を厳守してください。施工後、塗膜が乾燥するまでの時間内に降雨などにより、塗膜表面が長時間、水分がかかった状態になりますと、所定の低汚染機能が発揮されない場合があります。低汚染機能は乾燥後の塗膜で発揮されるため、乾燥過程で降雨などが予想される場合は、シート養生を行うなどして、塗膜表面に雨が当たらないよう所定の乾燥時間を厳守してください。
- 低温、高温時は乾燥が遅くなることがありますので、塗装後1~2日は、粉じんなどの汚染物質の付着にご注意ください。
- 防カビ・防藻性については、下地の条件・塗装の条件・塗装前処理の程度により、カビや藻が発生する可能性があります。
- シーリング面への塗装は、シーリング材の種類・使用条件により塗膜の汚染・剥離・収縮割れ等の不具合を起こすことがあるため、基本的には行わないでください。やむを得ず行う場合は、塗り重ね適合性を確認してから必ずノンブリードタイプをご使用ください。
- 塗膜の膨れ、剥離、白化の発生につながる場合がありますので、著しく結露が生じるような場所での使用は避けてください。
- 酸洗いを行う場合は、水をかけた後に行い、その後の水洗は念入りに行ってください。

- 最終養生の時間内に、降雨、結露などがあれば、塗膜の膨れ、剥離、白化、しみの発生、艶引けなどにつながる場合がありますので、塗装を避けるか強制換気などで表面の水分を除去してください。
- 上塗りにイエロー、レッド、ブルー、グリーン系など、彩度の高い色目を塗装する場合は、隠ぺい性を高めるため、隠ぺい性の良い共色であらかじめ塗装を行ってください。
- 著しく結露を生じるような場所では、しみが発生することがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装を行う場合は、強制換気の上、溶剤系塗料での塗装を推奨いたします。
- 結露等によりしみが発生した場合は、乾燥後に水拭きなどで除去してください。
- パテを使用する際は外部用パテをご使用ください。
- 旧塗膜が弾性素材の場合は施工を避けてください。
- スキンの場合は当社営業担当までご相談ください。
- 旧塗膜が単層弾性で爪で押して弾性が残っている場合は塗装を避けてください。
- 躯体のクラック等によりエフロレッセンスが発生する可能性のある場合は下塗りにリフレッシュサフェーサーエポまたは2液マイルドウォールシーラーを塗装してください。
- 斜壁には屋根用塗料を塗装してください。
- 水系塗料に使用するハケ・ローラーは、水系専用のものをご使用ください。
- 排水溝には捨てないでください。
- 低温、高湿度時は乾燥が遅くなることがありますので、塗装後1~2日は、粉じんなどの汚染物質の付着にご注意ください。
- 塗装乾燥過程で降雨にあった場合、雨水の集中する部位において、汚れが付着することがあります。適切な養生を行うなどして直接雨が当たらないような処置をお願いします。
- 施工部位により、低汚染性が十分に発揮されないケースがあります。特に、傾斜壁の下端部、笠木などの水切りのない部位、窓廻りで水切りが不十分な場合、汚れが溜まりやすい目地の下部、雨が当たらない部位などは、注意が必要です。
- 濃色や原色に近い色は、塗膜に触ると色落ちや白い擦痕が残る場合があります。衣類などが触れる可能性のある部位への施工は避けてください。
- 化学物質過敏症の人は、塗料に含有している化学物質(VOC等)に過敏に反応される可能性がありますので、充分ご注意ください。
- 塗料による臭気、近隣に迷惑を掛けることがありますので、充分に配慮をお願いします。
- 製品の安全に関する詳細な内容については、安全データシート(SDS)をご参照ください。

【塗料に関する注意】

- 出荷後出来るだけ早い時期にご使用ください。
- 使用前には充分攪拌してください。
- 小分けする場合は、充分攪拌して均一の状態にしてから行ってください。色浮き・色違の原因となります。
- 小分けして使用した水系のシーラーは元の石油缶には戻さないでください。
- 水系塗料の保管は直射日光を避け、冬季には凍結させないよう3℃以上の室内で行ってください。
- 材料の保管・取り扱いには消防法・労働安全衛生法に基づき充分な管理をお願いします。